

就任あいさつ

「過去の教訓を生かし、備えが有れば」



NPO愛知県防災士会
理事長 寺島 一徳

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、5月26日の平成30年度日本防災士会
愛知県支部通常総会に於きまして新理事長に就任しました。
今後とも宜しくお願い致します。

今年の夏は猛暑にうんざりした方も多と思います。気象庁より9月3日に6月～8月の天候の特徴について発表が有りました。平均気温はかなり高く、特に東日本は平均を1.7度も上回り、1946年の統計開始以降で最高になりました。

降水量も多く、北日本の日本海側は梅雨前線・秋雨前線、西日本の太平洋側と沖縄・奄美は記録的な大雨の日が続きました。

その中で6月末から7月初めにかけて、梅雨前線・台風7号により西日本の広い範囲で記録的な大雨になり「平成30年7月豪雨」や台風21号による関西空港冠水、6月の大阪北部地震など大阪を中心とした西日本に大きな災害が発生し、多くの方が被害に遭われました。

又、9月6日には北海道で地震(平成30年北海道胆振東部地震)が発生し、「猛暑と災害の夏」と記憶が残ります。改めて災害が多発する日本の現実を強く認識させられました。

この様に地震や豪雨など、災害はいつ・どこで起きるか分かりません。国や地方公共団体の対策に加えて、自助・共助の重要性はますます高まっており、私たち防災士に寄せられる期待も大きいものと考えられています。

特に南海トラフの巨大地震を意識した時に、自助と共助が大切になると思います。

まずは自分の身は自分で守るしかありません。

一定期間、いかに自活していけるか、その為の備えをどうするのか、どうやって生き抜くかを考える事が大切になります。津波が発生した直後や揺れが収まったら直ぐに避難行動がとれるか、日頃の啓蒙活動の中で地域の方々へお伝えする事が有効になると思います。

9月1日は「防災の日」、この日をから1週間は「防災週間」として、各地で訓練が行われました。今から95年前の1923年9月1日に首都圏を襲った「関東大震災」を教訓に「防災の日」が設定されました。

日本は地震国と同時に台風の襲来を受ける地理的条件が有ります。近年、地球温暖化の影響もあるのか、従来と異なった豪雨が頻発する傾向で、全国どの地域でも油断が出来ません。

「過去の教訓を忘れず、日頃からの備えがあれば」。

私たち防災士に求められるのは、いつ起こるか分からない自然災害を止める事は出来ません。それによって受ける様々な事態を想定した防災訓練や避難体制を確立する事や一人ひとりの防災意識を高める啓蒙活動により地域と一体となつての地域防災活動に努めていく事と思います。

私が所属している郵便局長会も地域防災の一助として、郵便局の局長が防災士資格を取得して、活動をしています。

皆様と一緒に活動をしてまいりますので、ご支援・ご協力方宜しく申し上げます

・・・「足跡を回顧して」・・・

NPO 日本防災士会 参 与
NPO 愛知県防災士会
常任顧問 保 坂 松 男

地域に密着した防災の情報発信の拠点をめざし、志を共に防災士に認証された今は亡き郵便局長さんと愛知県が主催した「あいち防災カレッジ」を修了し、防災士になられた有志により、幾度かの会合を重ね平成 18 年 4 月 22 日設立総会を開催し、日本防災士会愛知県支部として産声を上げ、その後、試行錯誤を繰り返し幾多の困難を乗り越えて来ました。

それから早や 12 年が過ぎ支部も大きく発展しました。その足跡を振り返るとき大変考え深いものがあり、様々な出来事が走馬灯の様に偲ばれてまいります。

この度、平成 30 年 5 月支部通常総会におきまして代表を退任いたしました。平成 18 年支部設立まもなくして前代表の急逝を受け、その任の重きを受継ぎ長きに亘る、ご指導とご鞭撻を賜り努めさせて頂きましたこと、心より厚くお礼を申し上げます。

その間、日本防災士会の設立に参画し長く本部の役員として努めさせて頂き、多くのことを学ばさせて頂きました心より感謝をいたしております。

また、平成 23 年には東海 4 県の連携を図るために全国に先駆け支部連絡協議会を立ち上げることも出来ました。

また、支部においては防災・減災活動を通し社会貢献を更に進めるため平成 28 年度の事業計画に法人化の推進を掲げ取り組んでまいりました。

素人の白紙からの取り組みであり 2 年の時間がかかりました。

遅々として事態が進まない中で挫折感を抱きながら困難な道のりでありましたが力を合わせ平成 30 年 6 月に名古屋市に法人化の申請が受理、8 月に認可をされました。

新たに NPO 愛知県防災士会と生まれ変わることが出来ましたことは、大変感慨深いものが去来いたします。

防災の啓発知識は時を待たずして多様化しております。

NPO 法人組織として生まれ変わり志を新たに防災士として更なるスキルアップに努め、会員力を合わせ広く地域のため防災・減災の啓発活動を進めて行かなければなりません。

新たな組織として愛知県防災士会の益々の発展を祈念し長年にわたりご指導を賜りましたことに対し心より感謝とお礼を申し上げます。

有難うございました。

～愛知県防災士会（日本防災士会愛知県支部）活動報告～

① 出前講座

「災害発生！“クロスロード”あなたならどうする！」

介護事業所における防災・非常災害対策講座

日時：平成30年1月12日金曜日 午後1時30分～4時30分

場所：名古屋商工会議所 5階会議室

参加者：90名（女性69名 男性21名）

防災士：支部会員12名（ファシリテーター）

講師：藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授
支部研修委員 羽田 道信 防災士

これから高齢化社会が進み、社会状況は大変厳しくなっています。

これを先取りし公益財団法人愛知県シルバーサービス振興会の依頼を受け主題の「介護事業所における防災・非常対策講座」を行いました。

講師の羽田道信防災士により「災害発生！“クロスロード”あなたならどうする」のテーマにより仮想災害課題に対して意見や価値観を参加者で共有する講座が行われ終始和やかな雰囲気での3時間でありました。



専門知識及び国家資格保持者が1チーム6名体制で、設問に対する各自の「YESカード」「NOカード」を出して他の参加者と意見を交わし、なぜかを理解するために納得いくまで互いに話し合いました。中には0対6の回答も多くあり、自分と同じ考えの方が多いと分かると、参加者の方々はとても安心感を得ているように思われました。

例えば、介護事業所に災害時に近隣住民が避難して来られた時の対応や、施設長不在時の災害時に施設の重要プライバシー書類の持ち出しについて他施設への提供判断と対応等、12課題をチーム内で議論し、グループ代表が発表し全員で共有したのち、羽田講師による状況説明や法的判断等の解説を真剣に聞いて、うなずきながら納得していました。



参加者より自身の立場をふまえ何を基準に考え、どのように行動すべきかを確りと学ぶことが出来た充実した講座であったと述べておりました。

文責 :高木 吉高

「食の安全を深める ～災害時の食事対策～」

平成 29 年度 愛知県児童福祉施設長会 食育部会研修会

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木）13 時 ～14 時 30 分

会 場：愛知県岡崎市東部地域交流センター むらさきかん 4A 会議室

主 催：愛知県児童福祉施設長会

参加者：県内児童施設 施設長・栄養士・調理師など 28 名

講 師：日本防災士会愛知県支部 森 千代子研修委員長

参加防災士：代 表 保坂松男

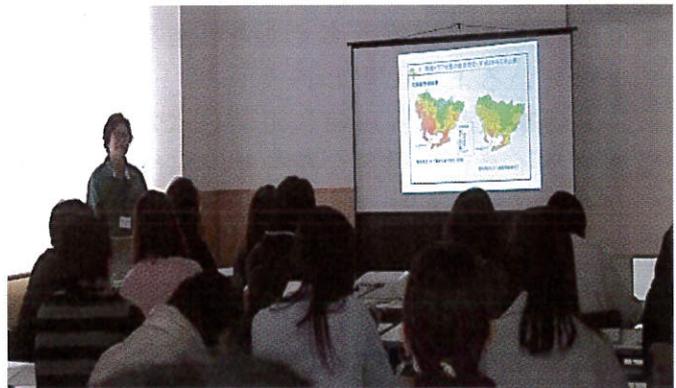
研修委員 小林春代・小林康信

愛知県児童福祉施設長会 食育部会様から「災害時における食事について」の講演依頼を受け、森研修委員長が講師を務めました。午前中「緊急時、災害時に対応できるパッキング」調理実習と試食会を終了後、午後 1 時からの講座でした。

「食の安全を深める 災害時の食事対策」と題し、災害についての導入として先ず懸念されている南海トラフ地震の被害想定をはじめ火山噴火、水害、土砂崩れ、雪害などの自然災害の各種データをパワーポイントでの説明で情報提供しました。

本題の「非常食から災害食へ」。「いつものように食べることができない時のあり方という意味で食を考える。被災地で生活、活動するすべての人を対象とする」と熊本地震被災地での現状など、支援活動体験を通しての森研修委員長の職務での立場への労いの言葉を交えながらの講義に、日頃、仕事として守らなければならない子どもたちと接している参加職員さんたちにとりまして、真剣そのものです。

避難所の良好環境、災害食に関わるライフライン、備蓄、要配慮者への特定食提供をも必要と伝え、恵まれている現在の食生活で慣れている舌は、非常時では受け入れられにくい、食の防災訓練「試食訓練のすすめ」として「備える・作る・食べる」のローリングストックをも考え定期的実施を提案しました。



最後に、災害時の食の役割・・・健康面の二次災害防止・救急 応急 復旧活動の支援、「災害に立ち向かうための食」。「災害は 備えた分だけ 憂いなし」と結びました。

文責：小林 春代

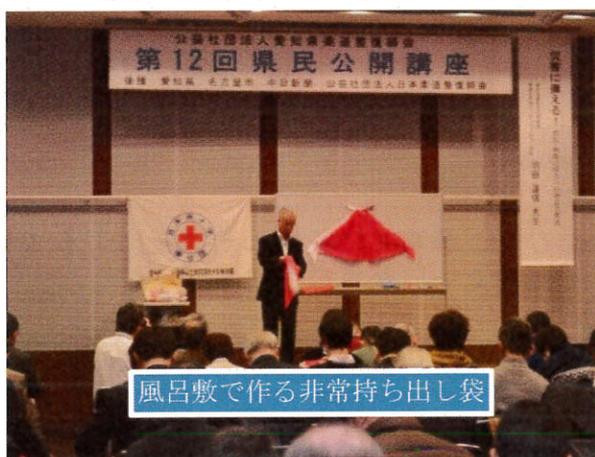


「災害に備える！ — 防災・緊急に役立つ日用品活用法 —」

第12回 県民公開講座

日時：平成30年2月18日（日） 午前10時～午前11時30分
会場：ウインクあいち 小ホール2（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）
主催：公益社団法人 愛知県柔道整復師会
後援：愛知県・名古屋市・中日新聞社
参加者：約200名
講師：藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授
支部研修委員 羽田 道信 防災士
日本防災士会 愛知県支部 保坂 松男代表ほか8名

中日新聞掲載（2018. 2. 19（月）県内版14面）



風呂敷で作る非常持ち出し袋



ゴミ袋で作る防寒着とカッパ



「中学生の夏ボラ体験」

～いざという時に役に立つ、身近にある段ボール、ロープなどを使った活用法を学ぶ講座～

日 時：平成30年8月3日(金)13:00～16:00

会 場：愛知県東海市「しあわせ村」多目的ホール

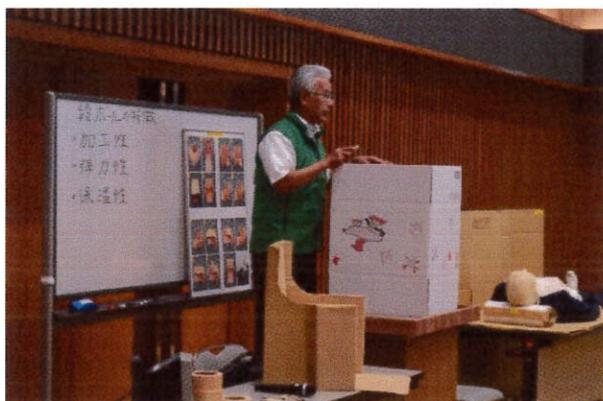
参加者：東海市名和中学校 1～3年生 30名

講 師：藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授

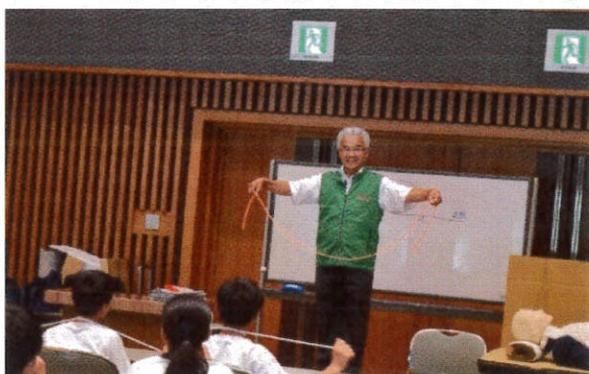
支部研修委員 羽田 道信 防災士

名古屋市の観測市場初、最高気温が40.3℃になったこの日。うだるような暑さの中、一人も休まず元気に中学生が集まって来ました。東海市社会福祉協議会主催の夏休み恒例のボランティア体験講座です。講師より「中学生は地域に役立つ重要な支援者になり得る」ことを教えられ、うなずきながら取り組みました。

始めに段ボールの特性を教わり、避難所などで有効な段ボール箱を利用した衝立や枕、ベッドなどに活用できることを学んだあと。座椅子づくりに取り組みました。カッターナイフを使用するため危険が無いよう、ダンボールの切り込み方を教わりながら慎重に切っていきます。背もたれもあり、いざという時に活用できる座り心地の良さに大満足していました。



休憩をはさんでロープワーク。真剣に連続玉結びや、暮らしに役立つ新聞紙によるスリッパの作り方、ロープによる洗濯物干し作りなど、すぐに使えそうな内容で興味津々でした。一本のロープによる不思議さを堪能しました。



この後は大小の風呂敷で、両手が使えるリュックサックや買い物、手提げ袋を作ってみました。男子も女子も真剣なまなざしで、普段あまり使うことの無い風呂敷による作り方を学びました。



最後はごみ袋を利用した防寒着とレインコート作りで仕上げです。

3時間の長い時間、最初から最後まで真剣に取り組んでいた中学生の姿に私たちも感動させられました。



写真：手塚 哲郎 文責：森 千代子

「マンション防災 緊急時救助訓練「自然災害から身を守る」」

日 時：平成 30 年 9 月 9 日（日）午前 10 時から正午まで

場 所：NDS マンション神穂 1 階 キッズルーム

参加者：30 年度自治会長・理事長はじめ住民の皆様 13 名

講 師：防災士：森 千代子（副理事長・研修委員長） 手塚 哲郎（副理事長）

<内 容>

毎年マンションの自治会の会長様はじめ理事の皆様が変わるため、新鮮な気持ちで防災・減災に向き合っていただけました。

前半は座学で地震への備えや、近年特に多くなってきた風水害や土砂災害なども含めて、地域のことをよく観察し理解したうえで行動することの大切さをお話ししました。

マンションの暮らしと一戸建ての家での備えはおのずと違ってきます。

低層階の住まいと高層階の住まいとは、またこれも備え方が違ってきます。

マンション管理士の防災士、松川様から、地震の時のこのマンションのエレベーターの取り扱い方を教えてもらい、より身近に確認する事ができて安心していました。



後半の実習では 胸骨圧迫と AED の取り扱いを全ての参加者が体験し全員一人も欠けることなく真剣に実習しました。

その後、止血の方法やけが人を搬送するための方法を、皆で協力し合って確かめながら行動している参加者を見て、この機会をいただいて良かったと心からそう思いました。

文責：森 千代子

「災害大国日本の現状」

日 時：平成30年9月13日（木） 15：20～17：00

会 場：名古屋市熱田区 ㈱テクノ菱和 8F 会議室

参加者：100名

講 師：防災士 保坂松男（常任顧問）

実技指導：手塚哲郎（副理事長） 森千代子（副理事長：研修委員長） 他防災士5名

☆ 講 演：「災害大国日本の現状」

1. 我が国の災害について
2. 地域における地震について
3. 南海トラフ巨大地震について
4. 備えについて

保坂松男防災士からスライドにより解説しました「新たな災害の発生」について、9月4日台風21号が25年ぶりに本土に上陸し、全国各地に被害を及ぼした状況。

- ・忘れる間もなく9月6日震度7の北海道胆振東部地震
- ・東海、東南海地震による震度状況
液状化及び地震による被害の想定（人的被害、家屋の倒壊）
- ・北海道全域にわたる停電によるインフラの崩壊
- ・世界の主な断層帯、地球上の震源の分布、愛知県の断層帯
- ・日本列島を取り巻くプレート
- ・南海トラフの巨大地震による東海地域の被害の想定
- ・東日本大震災は予知できなかった
- ・企業の防災への備え BCP（事業継続計画）の策定について
- ・安心は禁物
- ・いざという時のために
- ・最後に忘災は防災の敵である

備えあれば憂いなし、災害は忘れた頃に必ず襲ってくると締めくくった。

☆ 実技 指導

①新聞紙でスリッパを作ってみよう 参加者と一緒に作りました

次に森千代子防災士により災害時のトイレ対策と新聞紙によるスリッパづくりの説明後、作り方の実技があり、フアシリテーターの会員により作りかたをサポートしました。

②ロープワーク

最後に手塚哲郎防災士によるロープワークで自分の身を守るロープの結び方の実習に汗を流しました。

1. はじめに
ロープワークをやったことのある人は・・・
2. ロープワークの基本
 - ・災害時の救出・救助用品
 - ・誤って使うと結び目がほどけたり、緩んだり、危険をもたらすこともある。
 - ・しっかり基本を学んで、日常生活で繰り返し、実践すれば、ちょっとした特技になり、災害時・緊急時は命を救う道具となるのがロープであり、ロープワークです。
3. 災害時のロープワーク

ロープは、硬く結べば良いというものではなく、「結びやすく解けにくい」（張力がかかった時に解けない）、そして「解きたいときには解きやすい」ことが基本。

4. 実習

- ・蝶結び
- ・連続止め結び
- ・胴もやい結び
- ・引きとけ結び



文責：原田 友子

呉市災害ボランティアセンター天応サテライトの活動報告

西日本豪雨災害（30年7月6日～7日）で、大きな被害を被った広島県呉市天応地区へのボランティア活動を愛知県社会福祉協議会の主催で募集があり、一宮市から石垣辰夫、伊藤元博（支部会員）の2名が総勢27名が参加した。（社協職員19人及び一般ボランティア8人）

- 1 日程 平成30年8月20日（月）～22日（水）2泊3日
- 2 行程 8/20 JR名古屋駅集合（銀時計前）→ 広島県着
8/21 終日ボランティア活動（個人宅の土砂等の取り除き作業）
8/22 午前11時迄ボランティア活動（土嚢袋の移送作業）
終了後帰途、名古屋駅解散
- 3 活動場所 呉市災害ボランティアセンター天応サテライト
（呉ポートピアパーク内・災害で公園閉鎖中）
- 4 宿泊先 JR広島駅近くの世羅別館、

8/21 午前7:20 旅館出発 8:30 頃に呉市災害ボランティアセンター天応サテライト到着、受付を3班に分け（各班9人）オリエンテーションマッチング、リーダーはニーズ票、現地地図等をもらい次の会場へ、天応市民センターへ徒歩5分で到着、一輪車3台持って町会長の引率により徒歩10分で現地資機材置き場につき、スコップを乗せて個人宅に到着、町会長・3班リーダーの指示で、土砂の取り除き作業を開始、一輪車に積んだ土砂は、指定の置場迄運ぶ。

2日間とも気温35度、名古屋より湿度は高く熱中症対策として、10分作業、10分休憩の繰り返しで作業した。昼食は市民センターでとる。午後2時30分作業終了、資機材を返却しボランティアセンターに戻り、リーダーは活動報告した。靴や安全長靴を清掃し宿泊先へ帰る。



個人宅の土砂を取り除く作業
スコップ・一輪車で運び出す

★呉市天応地区は、背戸ノ川の兩岸の住宅地区へ土石流が流れ込み民家の1階辺り迄土砂が入っていた。豪雨災害から2か月経過しているが、土砂の取り除きが未だの民家かなりあり、ボランティア活動は、まだまだ必要であることを強く感じた。

★8/21 天応サテライト会場へ209人ボランティアが訪れた。スタッフは岐阜県社協、静岡県社協の方が活躍されていた。

8/22 天応サテライト受付後、土嚢袋の置場から移動場所へ配送作業開始、背戸ノ川の兩岸の狭い一方通行道路を一輪車により搬送した。作業中に一時雨が降り出し30分早く作業を打ち切る。

★帰りに大和温泉物語（呉港の近く）で温泉に入ることができた。（ボランティアさん無償提供）

★同センターへ安倍晋三内閣総理大臣一行・ジャニーズ木村拓哉一行等の訪問が既にされていた。



左 尾島春夫氏 右 石垣辰夫氏

広島特有の真砂土

尾島氏の背中

時の人、スーパーボランティア尾島春夫様との会話

ジョークで笑顔にする
話術の持ち主！！

<尾島春夫（78歳）大分県出身、毎日8K走る>

山口県周防大島町で、2歳児を30分で救助して一躍有名人となる。

石垣：尾島さんと同級生の石垣です。名古屋から来たボランティアですと挨拶

尾島：お前さんは警察官か（推察：黒い刺繍入り帽子を被っていたのでないか）

石垣：警察官ではありません。愛知県名古屋からの一般ボランティアです。

尾島：笑顔で名古屋城主かと言われた・・・石垣：びっくりした。

石垣：こちらも負けておられずおどけて笑顔で、元城主と回答

バス添乗員さんにシャッターをお願いし記念撮影、尾島さんから力強い握手をしてもらい大きな感動と感激をもらいました。



文責：石垣 辰夫

② スキルアップ研修

「 愛知県の防災体制について 」

【愛知県防災局講座】

日 時：平成30年2月4日（日） 午後1時30分～午後3時00分

場 所：愛知県支部 東特会館2階会議室

参加者：会員等 28名

講 師：愛知県防災局災害対策課 主事 小島 慶洋 氏

今回は、名古屋地方気象台へ出向き、会員のスキルアップを図ったところですが、今回は、愛知県防災局から小島氏を講師に迎え、愛知県の防災体制について勉強をさせていただきました。

研修 内容

- ① 愛知県で想定される災害について
- ② 愛知県の災害応急体制について
- ③ 愛知県の防災対策事業について

の三本柱からなるテーマについて説明がありました。

最初は、愛知県で過去に見舞われた災害の歴史を紐解きながら、南海トラフ地震（M8～M9クラス）が30年以内に発生する確率を71%（H29.4 地震調査研究推進本部）と公表されていることに触れ、その地震による揺れや津波、火災、液状化等に起因する人的・建造物の被害想定が数字で示されていました。

このデータは、資料を見た人の恐怖心をむやみにおおるものではなく、建物の耐震化、家具等の固定化対策や津波避難ビルの有効活用など、愛知県民が減災に向けた取り組みを行うことと防災意識の醸成に結び付けていきたいと説明されました。

また、愛知県では「愛知県防災学習システム URL: (<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>)」に「防災マップ」サイトをアップしていることから広く紹介するとともに、本日集まった会員の皆さんに活用していただきたいと多くの方のアクセスを要望されました。

引き続き、「災害応急体制」について説明がなされ、

- ① 勤務時間外に緊急事態が発生し、又は発生する恐れがある場合に、防災局幹部職員による県庁近隣の宿泊施設に待機する危機管理待機と防災局職員等による危機管理宿日直体制
- ② 職員の合理的配置を図り、県の防災活動態勢を整備する非常配備体制
- ③ 県知事を本部長とする災害対策本部機構概要図と目的
- ④ 各部の職員等で編成するプロジェクトチームを災害情報センターに配置した時の活動に触れ、説明がなされました。

最後に「愛知県の防災対策事業」について説明され、

- ① 第3次あいち地震対策アクションプランの概要
- ② 津波等による浸水を防ぐための河川・海岸堤防の耐震化
- ③ 地域を守る農業用排水機場と農業用ため池の整備
- ④ ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点
- ⑤ 防災の日及び津波防災の日を中心とする日に防災機関や愛知県民が参加する防災訓練
- ⑥ 家具等転倒防止対策推進事業の展開（家具固定に関する相談窓口を防災局内に設置）
- ⑦ 広域連携の取り組みの一環として、中部9県1市災害時等の応援に関する協定及び東海四県三市防災・危機管理に関する連絡会議の制定
- ⑧ 熊本地震を踏まえた対策



など多岐に亘り、愛知県が果たされる防災対策の役割について、大変貴重なお話を興味深く拝聴することができました。

これを機に相互の連携が進展することを強く望む研修会となりました。

文責・写真：阿部 健二

「名古屋地方気象台講座」

日 時：平成30年2月22日（木）午後1時30分～3時20分

場 所：愛知県支部 東特会館2階 会議室

内 容：2部構成で二人の講師により、それぞれ専門分野についてご指導いただきました。

参加者 愛知県支部会員 21名

1. 「防災気象情報の改善と利活用について」

講 師 名古屋地方気象台 防災気象官 野内 修一 氏

2. 「地震と津波について」

講 師 名古屋地方気象台 東海地震防災官 名倉 賢哉 氏

第1部 「防災気象情報の改善と利活用について」

まず気象の基礎として、降雨の原理や大雨がもたらす災害から進み、愛知県で起きた主な災害について事例をもとに、線状降水帯の成り立ちなども丁寧に教えていただきました。

近年は集中豪雨や台風などの被害が多く気になりますが、社会に大きな影響を与える防災気象情報の改善と題して、いつ警戒すればよいか危険度を判り易くするために、色分けした時系列で表示し、視覚的に把握しやすい方法に改善していることを詳しく解説していただきました。

これにより警報に代わりそうな注意報や、警報が出そうな時期までも把握できるようになります。またメッシュ情報の充実で、危険な地域を視覚的に確認できるため、地域のどこが危険であるかなどが詳細に判り納得できます。

このため各市町村や地域住民が、迫りくる危険を自ら納得して主体的に避難することができます。防災士としても、これらの情報をよく理解して、防災・減災活動の今後の活動に活かしていくよう、更なるスキルアップに励もうと鼓舞された思いの防災気象情報の改善でした。

第2部 「地震と津波について」

初めに地震の仕組みとタイプについて確認してから、熊本地震や東北地方太平洋沖地震につい

て振り返り、過去に愛知県に大きな被害を及ぼした濃尾地震や三河地震をも確かめました。

地震や津波の監視体制や警報と情報の流れ、それに気象庁が発表する地震・津波の警報・情報についても詳しく解説して頂き、その流れを理解することができました。

緊急地震速報は、警報と予報の2種があること、震源に近い所では、強い揺れの到達に間に合わないこと、誤差もあることなどを話されました。

また、津波の危険があるときは、何を置いても素早く高台を目指して逃げることを豊富な資料で示して頂き、津波情報発表後の情報と津波観測後の情報に分けて説明いただきました。

また、震度速報と震源に関する情報などについても、詳しくお聞きすることができました。

来るべき南海トラフ地震の情報については、昨年11月1日に開始されたという防災対応の観点から、南海トラフ地震沿いに異常な現象が観測された場合に南海トラフ地震に関連する情報（臨時）についても新しい試みで、長周期地震動に関する観測情報（試行）などたくさんの内容についてお話を伺うことができました。

参加者一同、大変有意義で為になったと充実した講座になりました。今回お二人の気象官に異なった内容で講義を受けることができ、大変ありがたく嬉しく思いました。

文責：森 千代子



外部研修会「名古屋地方気象台を訪ねて、知識を深めよう」

日 時：平成30年1月22日（月）午後1時30分～2時40分

場 所：名古屋地方気象台 名古屋市千種区日和町2-18

参加者：愛知県支部会員 16名

講 師：名古屋地方気象台 観測予報調査官 原 浩司 氏

この日は前線を伴った低気圧が本州南岸を東へ進み、首都圏や日本海側では雪になると予測が出た寒い日だった。

地下鉄東山線の本山駅を出た時、もうすでに小寒い雨が降っていた。高台にある気象台を目指すまで坂道を登っていくと、目印の白い気象観測ドームが見えてきてほっとした。

雨の中では外に出て機器の学ができないため、研修室の窓から外にある設備の説明を受けた。折角の機会なのに雨が恨めしいと思いつつも、調査官の説明にうなずき、気象台の仕事内容にも思わずあれこれ質問などして興味津々になっていった。

一滴でも雨が落ちてくると感知して入電する雨量計。昔からあった百葉箱の代わりに小屋と乾湿計。風向風速計・積雪深計。屋外にいろいろな機器が配備されていたが、調査官の目視によって視界を計測することもあると聞いて驚きだった。

また、桜の開花日の目安となるソメイヨシノの他にも、季節を感じるための目安の植物も多く植栽されていると教えてもらった。春の暖かい時期に、もう一度訪ねたいと思った。

展示室では珍しい波高計の実物や上空の気温を計測する機器などを見せてもらった。

見るものがすべて珍しく、参加者は案内人へ質問攻めであったが丁寧に教えていただくことができ、あっという間の1時間余りであった。

愛知県支部では来月（2月22日）に「地震と津波」と「防災気象情報」について名古屋地方気象台の2名の気象官により県支部において講義を受けることが決まっている。

気象台の見学を終え少し親しみを覚えたので、今度の講義を受けるのが楽しみになった。



《晴天時の名古屋地方気象台》



＜まず気象台全体の説明＞



《風向・風速計の仕組みを仰ぐ》



＜部屋の中から説明を聞く＞



＜漂流型海洋気象ブイロボット＞



＜説明を聞きながら質問があちこちから＞

文責：森 千代子

平成 30 年度 第 1 回スキルアップ研修会

災害時におけるダンボール活用法&ロープ 1 本 自己保全術」

日 時：平成 30 年 7 月 29 日(日) 13:30～5:30

場 所：愛知県支部 東特会館 4 階会議室 参加者：59 名

講 師：藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授

支部研修委員 羽田 道信 防災士

平成 30 年 7 月 28 日、強い台風 12 号は勢力を保って東海地方に接近し本州に直撃した。気象庁によると 7 月 29 日未明、三重県伊勢市に上陸。県下に暴風警報や大雨警報が出て各地で災害対策本部が設置され避難勧告等が発令し災害避難所が開設された。

J R 東海や私鉄が運転見合わせなど大混乱し、本研修会の中止も心配されたが午後には天気も回復し

開催することができ、会員59名の参加により実習体験に挑戦した。

いざという時に役立つ、段ボールやロープの活用法を学び、今後の活動の幅を広げていきましょう。講座などで活用できるよう、しっかり身に付けて頂くために、丁寧にわかりやすく講師よりご指導いただきました。

森研修委員長挨拶 防災士として講師になれるよう勉強して、有意義な活用を期待します。

寺島理事長挨拶 本日は台風により開催が心配されたが、天気予報などを参考にして開催した。皆さんの身になるよう学んでください。



<実習体験内容>

A ダンボール座椅子 (ダンボールの特徴 ①加工性 ②弾力性 ③保温性)

材料：ダンボール1個 ・カッターナイフ ・ガムテープ

高齢者、要支援者などダンボールベッド等は必需品として使用されている。

参加者3名で1個のダンボール座椅子を上記の材料で、講師の指導により実習体験し、作品は会員の希望者は持ち帰りが出来ました。

B ロープワーク (災害時の必需品)

止め結び・連続止め結び・ひと結び・ふた結び・連続ふし結び・鎖結び・二重鎖結び・巻き結び・曳き結び・棒結び等を実習体験した。

第1回研修内容は、実習体験のダンボール座椅子作りとロープワークの各種を楽しく熱心に盛り上がった感動で学ぶことができました。実習体験で防災減災に関心を持ち、今後の防災意識の向上に繋がるものと思います。

文責：石垣 辰夫

防災士スキルアップ研修会をうけさせていただき、とても勉強になりました。

段ボールの使い道において、保温性が高いことから、就寝時に活用していることはよく目にしましたが、加工して枕にしたり、今回作成した椅子まで作ることを体験させていただき、段ボールの活用知識の幅が広がりました。

また、ロープの活用についても勉強になりました。日常生活だけではなく、結び方ひとつで人命救助に活用ができることにとっても感動いたしました。

災害は起こらないことが一番ではありますが、一つでも多くの知識を学ぶことができ、自身の為になった研修だったと思います。

名古屋南陽通郵便局長

喜多村 康平



平成 30 年度

特定非営利活動法人 (NPO) 愛知県防災士会 役員名簿

平成 30 年 6 月 8 日

役 職	職 務	氏 名	備 考	出身地
理 事	常任 顧問	保 坂 松 男	・本 部 参 与 前本部 常任理事 前支部 代 表	東海市
理 事	参 与	倉 知 彰 治	前本部 監査委員 前支部 参 与	一宮市
理 事 長	全 般	寺 島 一 徳		名古屋市
副 理 事 長	筆頭 総括	手 塚 哲 郎	前支部 代表代行	名古屋市
副 理 事 長	兼 企画委員長	櫻 井 衛	・本 部 理 事 前支部 代表代行 企画委員長	知多市
副 理 事 長	兼 研修委員長	森 千 代 子	・本 部 監 査 委 員 前支部 研修委員長	岩倉市
理 事	事 務 局 長 兼 広報委員長	阿 部 健 二	前支部 広報委員長	名古屋市
理 事	組 織 委 員 長	加 藤 和 久	前支部 組織委員長	春日井市
理 事	財 務 委 員 長	槌 岡 宏 行	前支部 会計担当	瀬戸市
理 事	事務局 次長 兼企画副委員長 財務副委員長	加 藤 芳 隆	前支部 事務局長	名古屋市
理 事	研修副委員長	宮 澤 昌 嗣	前支部 研修委員	桑名市
理 事	研修副委員長	小 林 春 代		蒲郡市
理 事	広報副委員長	原 田 友 子	元支部 広報委員長	一宮市
理 事	広報副委員長	久 野 悟		名古屋市
理 事	組織副委員長	石 垣 辰 夫	前支部 組織副委員長	一宮市
監 事		原 美 佐 子	前支部 研修副委員長	豊橋市
		荻 原 健 二	前支部 会計監査	名古屋市

平成30年度 出前講座予定表

特定非営利活動法人 愛知県防災士会
(日本防災士会愛知県支部)

NO	主催者	講座名	演題	開催場所	講演希望日	開催時間
1	名古屋市立中央高校(昼間)	防災セミナー	校内防災探索 ロープワーク	名古屋市立中央高校	9月26日(水)	10:50-12:40
2	刈谷市幼稚園園長会	園長研修会	地震発生! あなたの園は大丈夫?	刈谷市役所 7F701 研修室	11月1日(木)	16:00-17:00
3	(株)テクノ菱和安全衛生協力会名古屋支店	安全衛生協力会講座	地震防災の基本	(株)テクノ菱和 8F 会議室	9月13日(木)	15:00-16:50
4	稲沢市幸町自治会	防災訓練	地区防災訓練	大塚小学校	10月21日(日)	8:50-
5	NDSマンション自治会	防災訓練	緊急時救助訓練	マンション 1階 キッズルーム	9月9日(日)	10:00-12:00
6	愛知県シルバーサービス振興会	事業所における防災対策	防災・減災対策	名古屋商工会議所 8F 会議室	平成31年1月18日(金)	13:30-16:30
7	(株)ミルックス名古屋支店	災害防止協議会講座	地震・気象災害から身を守る	清水建設(株) 8階会議室	10月23日(火)	14:00-16:30

平成30年度 研修計画

<はじめに>

特定非営利活動法人として発足後、初の会員のスキルアップ研修計画をまとめました。

総会后、前々から決定しておりました活動については既に終了したものもありますが、外部からは各種の講座依頼が来ております。会員の皆様にも是非、講座への参加をお願いいたします。

平成30年度の事業計画に基づき会員のスキルアップを図ってまいります。

その中で講師及び講座をサポートされるファシリテーターを一人でも多く育成していくことを目指しております。

それぞれ専門の分野につきましては更なる探究に努めて頂き、その他、多様な分野につきましては会員の意見を伺い乍ら広く研修の機会を計画し養成してまいりたいと考えております。

なかには会報などの連絡が間に合わない緊急性のある活動もありますが出来る限りお知らせいたしますので共に活動に参加して頂きますよう会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

<会員のためのスキルアップ研修>

月 日	時 間	内 容	場 所	担 当
10月25日(木)	15:00~16:20	直ぐに役立つロープワーク	東特会館4階	手塚哲郎 他
12月22日(土)	15:00~16:20	福祉関係避難者への対応を YES?NO ゲームで学ぶ	東特会館4階	広瀬一行
2月 日()	日・時間 未定	救急手当と搬出法	東特会館4階	森千代子 他

※12月22日のYES?NOゲームについては、広瀬防災士のご厚意によりUSBに移していただけます。必要な方は、USBをご持参ください。

このほかに名古屋地方気象台の専門官による「名古屋気象台講座」を2回、会員の羽田研修委員による「防災・減災お役立ち講座」を1回、次年度総会までに予定しています。

募 集

～日帰りスキルアップ研修会「海津市砂防遊学館と火力発電所から防災を学ぶ」～

開催日時 平成30年11月10日(土) 8:30～16:30 名古屋駅西口発着
開催場所 さぼろ遊学館(巨石積堰堤・土石流広場)・中部電力川越電力館にて防災研修
参加費 6,000円(バス・昼食・見学代金含む)
募集人数 40名まで
申し込み 10月19日(金)まで

申込み先 組織委員長 加藤和久(電話・FAX 0568-84-5733)
事務局 加藤芳隆(FAX 052-914-4982)

※参加希望者には、行程等確定次第詳細をご連絡いたします。

～日本防災士会会員の活動理念～

- 第1 日本防災士会会員(以下「会員」という)は、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。
- 第2 会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策(復旧・復興活動を含む)等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。
- そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。

1. 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
2. 地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
3. 自治体との緊密な連携を図ること。

～愛知県防災士会事務局からのお願い～

平成30年度分(平成30年4月～平成31年3月)の年会費につきましては、下記口座へ払込み下さいますようお願い致します。(未納の会員の方のみ払込用紙を同封しました)

なお、29年度分未納の方につきましては、早期に払込みをお願い致します。

おって、3ヶ年分以上払込みがない会員の方につきましては、勝手ながら退会とみなさせていただきますのでご了承ください。

(郵便振替口座) 00830-7-203837
(口座名) 日本防災士会 愛知県支部
(年会費) 1,000円



NPO 法人 愛知県防災士会

広報委員会 作成

〒453-0013

名古屋市中村区亀島 1 丁目 11-14

東特会館内

